

・・・「みんなのカフェ」を始めてみて・・・

『みんなのカフェ』を始めて1年が経ちました。

現在『みんなのカフェ』は月に一度、お昼前から夕方までの時間を使って、ランチやお茶を楽しみながら、様々な手仕事ワークショップやリラクスマッサージ、絵本の読み聞かせや地域のお花屋さんなどがきたりと、……、たくさんの「私こんなことができるよ」を持ち寄って、地域の交流の場をつくっています。

この1年はコロナ化を経てあらためて、老若男女問わず地域の人が出会い繋がる場とはなんなのかを運営から見直す1年間でした。

これはみんなのカフェに限らず、地域活動のあり方について考えることでもあったように思います。

コロナ禍以前は、月に一度約100名以上の人達が一緒に夕飯を囲む「みんなの食堂」を開催していました。そんな中コロナ禍は人との接触を避けなければいけない状況となり、食堂の中止も余儀なくされました。

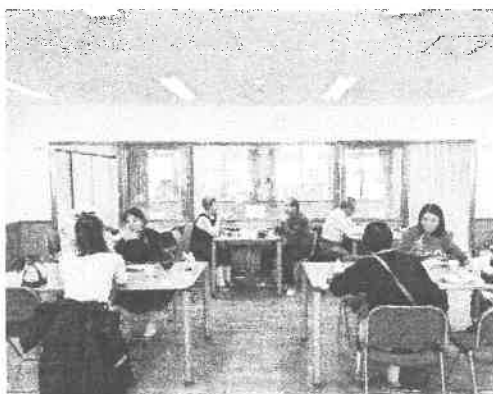
当時食堂の運営は、子育て世代とシニア世代、約20名がボランティアで関わってくれていましたが、食堂を中止にした数年はそれぞれの状況が大きく変わる期間でもありました。

子育て世代は子供が中学高校生になり、あらたに仕事を始める家庭が増え、シニア世代は年齢ならではの体の不調などもあり、以前のようにみんなで100名のご飯を毎月作るのは困難かもしれないという現実が突きつけられました。

それでもやっぱり「みんなの食堂」を通してできた繋がりを絶やすことはしたくない、、そのために、今自分達にできることややりたいことってなんだろう、そもそも地域でどんな場が求められているのか、一緒に運営する仲間をさらに増やすためにはどうしようか、、と様々な課題と向き合ってきました。

運営側も参加者も誰もが楽しくゆったりできる空間というのは、一筋縄ではうまくいかないことばかりですが、だからこそ少しの変化を大切にしたいと考えています。

私自身は食堂運営がなければ出会うことがなかった世代間の繋がりが、この久木山の根地域での暮らしを豊かにしてくれました。そんな豊かさをまだまだ地域で広げていきたいという野望を抱きつつ、まずは来てくれた方が思わず楽しくて笑顔が溢れるそんな場所をつくっていききたいと思う1年目です。



令和5年12月度役員会

開催日時と場所：2023年11月4日（土）13
議題

時 30分～15時40分、久木会館 参加者19
名（内役員11名）

(1) 行政からの連絡事項

① 下水道課よりの報告事項

配布資料②に基づき、浸水想定区域図を作成する
為の現状の水路、側溝などの調査・測量を令和5
年10月23日～令和6年3月29日まで実施
する旨の説明があった。

調査結果をもとに、国のガイドラインに基づき、
6種類（最大153mm/h）の降水量に対する水の
流れをシュミレーションし、浸水想定区域図作成
するとの説明があった。

(2) 審議事項

① 11月26日の久木中学校防災訓練に向けての 実施内容確認

a) 配布資料⑤に基づき、防災訓練・避難所運営
訓練の実施内容とスケジュールが説明された。

・それぞれの担当者にはゼッケンをつけてもら
い、視覚的な認知を促し、作業の概要把握の一
助とする旨説明された。各担当者はゼッケンの
必要枚数を11月19日までに鈴木友行氏に連
絡するよう要請された。またゼッケンを止める
安全ピンも予め準備することが確認された。

（尚、災ボラはベストで対応）

・訓練に使う機材の収納場所など予め確認する
必要があることから、防災倉庫を開けて確認す
る日を担当者間で後日調整することになった。

b) 配布資料④に基づき、無線通信訓練手順に関
する変更点が説明された。

② 拡大久木朝市【11/23（木・休日）実施】 について

配布資料④に基づき、下記内容が説明された。

開店9時（8時半から設営開始） 閉店（13
時 店舗により12時閉店でも可）

レイアウトはPTAが決定、設営はPTAお父
さんチーム。

通常朝市メンバーはいつもどおり会館長機を使
用。テントは各ブースが持参

（朝市メンバー店舗）1.崖下農園 2.逗子ガーデ
ン（プランター、野菜） 3.オレンジミント
（焼き菓子） 4.はながげ堂（クリスマスリー
スワークショップ） 5.geometrica ヒンメリ
（刺し子など手工芸） 6.ソクタ（焼き菓子
他） 7.日本ハビタット協会（桑茶） 8.藤野養蜂
（はちみつ） 9.久木瓶詰部（食べるラー油）
10.スパイスチャイ chorb(チャイ) 11.三浦野

② 文化スポーツ課よりの報告事項

配布資料③に基づき、昨年公道での長時間の交通
渋滞が発生した事をうけ、逗子市内一周駅伝競走
大会コースを変更する旨説明があった。

スタート地点は第一運動公園から池子の森自然
公園に変更、一部住宅街を通るコースとなる。意
見として、住宅街を通る区間は路地が狭い区間
であることから、地域住民の生活に支障がないよう
運営するよう要望がだされた。

菜 12.黒田農園 13.おしゃべりな手（おばち
ちゃん手芸） 14.古民家カフェあおいと（コーヒ
ー、サンドイッチ） 15.みんなの食堂 など
また、PTA 出店は21店舗 総計36店舗と
なる予定であることが説明された。

③ 「住民協ひろば特別号」について

a) 配布資料⑥に基づき、事務局より、特別号の
巻頭言として記載予定の、「地域防災の基本的
な考え方」について説明があつた。

今回の防災訓練実施を通して、地域の包括的防
災体制構築への通過点、また布石となり、地域
の目指すゴールが浮かび上がる内容に出来れば
ベストであるとの説明があった。

・本件に対するコメントがあれば、メールにて
石井氏に連絡するよう要請された。

b) 配布資料⑦に基づき、特別号の記載内容と日
程について説明があった。

・編集責任者は石井事務局とし、編集に関する
アドバイス・取りまとめは田倉氏に依頼するこ
とになった。

・今回の防災訓練の記録・報告は記載内容とす
るのかなど、記載する内容については、次回の
連絡会で議論することになった。

・住民協役員が一方向的に訴えるのではなく、住
民がどういう問題意識を持っていて、それをど
う訓練に反映したなど、住民と一体感のある意
識構築に役立てる必要があるとの意見が出され
た。

③ その他

a) 逗子市身体障害者福祉協会解散により、
久木会館にお茶碗の寄贈があったことが報告さ
れた。

《連載》 久木朝市ひろば
【逗子の蜂飼い、ふじの蜂牧場】

逗子の蜂飼い、ふじの蜂牧場です。
久木と山の根の間の山でセイヨウミツバチを飼っています。5年ほど前に1箱からミツバチを飼い始め、今では合計8箱まで増えました。ミツバチが飛ぶのは巣箱から半径2km。久木、山の根一円に池子の森、逗子市街が主な蜜源です。4月は逗子一面の桜、5月は庭の柑橘系、6月は山のどんぐり、8月はヒマワリや烏山椒から蜜が採れます。とは言え、どんな花になるかは蜂任せの天気次第。
同じ場所に巣箱を置いていても、時季や年によって、味も色も香りも全然違います。
ふじの蜂牧場のハチミツは市販のものとは違い、加熱処理で、糖度を上げていません。ずしがミツバチが集めて巣板に貯まったハチミツを遠心分離機にかけて、布で濾過して、そのまま瓶詰

藤野 裕基（山の根在住）

しています。逗子に咲いている花の蜜そのままの味です。
市内の飲食店への納品や地域のイベント出店、逗子市ふるさと納税の返礼品などなど。最初はシュミで始めたはずだったのですが、ここまで大きくなるとは自分でもビックリです。
今はハチミツですが、蜜蝋やハチミツを使った料理、採蜜体験なども企画していきたいと考えています。
また、こうして蜂を飼ってハチミツが採れるのも、久木と山の根の土壌が豊かで多種多様な花が咲くからこそ。蜂の管理で日々山に入っていて、それを強く実感しています。
ハチミツを採るのはもちろんですが、逗子が蜂を飼い続けられる場所であり続けられるよう、山林整備などにも力を入れていきたいです。

《レポート》 カーボンニュートラル（続）

18. GX（続）

③GX 実現に向けた基本方針（続）

(1). エネルギー安定供給の確保を大前提とした GX の取組み

①徹底した省エネの推進、製造業の構造転換・・・第78号に掲載済み	
②再生可能エネルギーの主力電源化	
脱炭素電源として重要な再生可能エネルギーの導入拡大に向けて、国民負担の抑制と地域との共生を図りながら、S+3E（安全性（Safety）、安定供給（Energy security）、経済性（Economic efficiency）、環境（Environment））を大前提に、主力電源として最優先の原則で最大限導入拡大に取り組み、関係省庁・機関が密接に連携しながら、2030年度の電源構成に占める再生可能エネルギー比率36～38%の確実な達成を目指す。	
*2030年度に再エネ比率36～38%達成を目指す。 太陽光発電について適地への最大限の導入、風力発電について「日本版セントラル方式」(注)を確立し、新たな公募方式による公募を開始。 (注) 政府或いは準ずる主体が風況・気象海象・漁業権・海底地盤・系統 連系等を調査、調整を主導して事業実現を効率的にする仕組み。	FIP制度(注)の導入を拡大。(注) FITが固定価格買い取りに対して、FIPは売電収入にプレミアムを上乗せして支払われる制度。 2022年度末に新ルールによる洋上風力発電の公募を開始 将来の太陽光パネルの大量廃棄に対して、費用積み立て制度等計画的に対応。
*マスタープラン(注)に基づき、全国規模での電力系統整備と海底直流送電の整備を進める。 (注) 全国規模での電力系統整備計画	地域間を結ぶ系統については、今後10年間程度で過去10年の8倍以上の規模(1000万KW以上)で整備を加速。北海道からの海底直流送電については2030年度を目途に進める。
*出力変動への対応として、定置用蓄電池の普及や分散型電源も参加できるスマートグリッド(注)等諸施策を加速させる。(注) 電力の供給側と消費側がITを活用してデータを共有し、需給を調整することにより電力利用を最適化する新しい電力網	定置用蓄電池について、2030年に向けた導入見通しを策定。揚水発電の維持強化、ダイヤモンドリスパンスの拡大、余剰電気を水素に置換して蓄電するシステムの実用化等環境を整備する。

*次世代太陽電池（ペロブスカイト）、浮体式洋上風力発電の開発・実装化を促進する。	浮体式洋上発電について、関連産業の大規模・強靱なサプライチェーン形成を進める。
③原子力の活用	
あらゆる場面での安全性の確保と国民理解に国が前面に立って取り組む。CO2 を排出せず、出力が安定的であり自律性が高いという特徴を有する原子力は、安定供給とカーボンニュートラルの実現の両立に向け、エネルギー基本計画に定められている 2030 年度電源構成に占める原子力比率 20～22%の確実な達成に向けて、いかなる事情より安全性を優先し、原子力規制委員会による安全審査に合格し、かつ、地元の理解を得た原子炉の再稼働を進める。	
*2030 年度電源構成の占める原子力の比率 20～22%に向けて原子炉の再稼働を進める	安全性を最優先とし、安全審査に合格、且つ地元の理解を得ること。
*次世代革新炉の開発・建設に取り組み、廃炉が決定した原発敷地内に建設を具体化する。	六ヶ所再処理工場の竣工、必要な事業環境整備、研究開発・人材育成、サプライチェーンの強化等を合わせ行う。
*40 年+20 年の運転期間制限を設けた上で、一定の停止期間に限り追加的延長を認める。	原子力規制委員会の厳格な審査を前提とする。
*核燃料サイクル推進、廃炉の着実かつ効率的な実現に向けた知見の共有や資金確保等の仕組みの整備や最終処分の実現に向けた国主導での国民理解の促進や自治体等への主体的な働き掛けの抜本強化を行う。	
④水素・アンモニアの導入促進	
水素・アンモニアは、発電・運輸・産業など幅広い分野で活用が期待され、自給率の向上や再生可能エネルギーの出力変動対応にも貢献することから安定供給にも資する、カーボンニュートラルの実現に向けた突破口となるエネルギーの一つである。特に、化石燃料との混焼が可能な水素・アンモニアは、エネルギー安定供給を確保しつつ、火力発電からの CO2 排出量を削減していくなど、カーボンニュートラルの実現に向けたトランジションを支える役割も期待される。同時に、水素・アンモニアの導入拡大が、産業振興や雇用創出など我が国経済への貢献につながるよう、戦略的に制度構築やインフラ整備を進める。	
*水素・アンモニアへの移行を進め、大規模かつ強靱なサプライチェーンを国内外で構築する。規制・支援一体型での包括的制度的準備を促進。	既存燃料との価格差着目した支援制度を導入、水素分野で世界をリードすべく、国家戦略の策定を含む包括的的制度設計を行う。
*国内の水素・アンモニア生産・供給体制の構築を支援する。	余剰再エネからの水素製造・利用の研究開発・導入を支援。輸入においての水素資源国との関係強化を図る。
④ CN に向けた電力ガス市場整備、他・・・次号に掲載予定	

鈴木 為之（山の根在住）

編集後記

11 月は 7 日の立冬を過ぎても夏日を記録し、異常とも云える天候が続いたが 10 日を過ぎた頃から、急に寒さが日本列島を覆い北海道、東北では大雪となった所がある。例年と比べ異常とも云える天候となっても昔からの「二十四節句」の暦通りに季節は巡るのかとふと感じた。

「二十四節句」は調べてみると、昔から作物の管理、収穫等を適格に行う様に春、夏、秋、冬の季節を四つに定め、更に各季節毎に季節の変化を六つ毎に分類している。立冬から立春の前までが冬となり、冬は<立冬>11/7 頃、<小雪>11/22 頃、<大雪>12/7 頃、<冬至>12/21 頃、<小寒>1/5 頃、<大寒>1/21 頃となる。それぞれ気候の変化に合わせて何を食べ、生活の変化をどの様にするのか季節に合わせた生活の指標としても定められた様である。今年はどうな冬となるのだろうか？

事務局長 石井 達郎